

Voice of friends

NEWSLETTER

フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー ニュースレター
ボイス オブ フレンズ vol.37

contents

- ラオ・フレンズ小児病院開院
- ラオ・フレンズ小児病院院内案内
- 赤尾和美『今月の出来事』から
- カンボジア／ミャンマー活動報告
- ラオスを知ろう～美しい街並と僧侶の托鉢～

©Yumiko Izu



ラオ・フレンズ小児病院(LFHC)が

2015年2月11日、ラオスのルアンパバーンで、フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーが運営する「ラオ・フレンズ小児病院(LFHC)」が、ついに開院しました。

1999年2月に
フレンズ・ウィズア
ウト・ア・ボーダー
が設立し、運営を

担っていたカンボジアの「アンコール小児病院(AHC)」が自立に向かって動き出したのは2011年6月のこと(実際の自立達成は2013年1月)。それを機に、創設者の井津建郎から『これまでに蓄えた経験と知識を、他のアジア諸国でも活かさないか、またそれこそが長年にわたってご支援をいただいた方々への感謝の形にもなるのではないか』との提案があり、フレンズUSAとフレンズJAPANによる調査・検討が始まりました。

その結果、新規プロジェクトの有力候補地として挙げたのが、カンボジアの隣国ラオスの古都ルアンパバーンです。2011年の幕が上がった頃から、数度にわたる現地調査、ラオス保健省やルアンパバーン県保健局との折衝などを経て、正式なプロジェクトとして発足したのが2013年11月。ルアンパバーン県立病院の敷地内に建設用地を確保し、病院建設に着手するかたわら、新スタッフの採用や教育が順次始まり、開院に向けての準備を進めてきました。それから2年あまり。準備に関わる全スタッフと、応援してくださる支援者の皆さまの思いが集結し、やっと迎えた開院です。

支えてくださったすべての方々にお礼申し上げます。あり



▲来賓によるテープカットの様子



▲風習にのっとり、式典に先駆けて僧侶たちの読経が行われました

がとございました。

さてしかし、これからが本番です。開院は、ゴールではなく、スタート地点。これから、ラオスにおける小児医療への本格支援が始まります。

「ラオ・フレンズ小児病院(LFHC)」は、「アンコール小児病院(AHC)」の基本理念を踏襲して運営されます。つまり①医療②教育③地域支援を3つの柱に据えて継続性のある小児医療モデルを作り、結果的にラオス全体の医療レベルの底上げにもつながるように活動すること。開院から16年を経たAHCは、すでにカンボジア国内で確固たる信頼を得ており、小児医療の現場ではリーダー的な役割を担うまでになっています。LFHCも、同じような働きができるよう、努力していかなければなりません。

また、LFHCの特徴として、既存のルアンパバーン県立病院にある小児科を、フレンズが引き継いで担当する、ということがあげられます。このモデルとなるのが、2010年にAHCの分院としてカンボジア・ソトニコム郡立病院内に開院した「アンコール小児病院サテライトクリニック」です。



▲井津建郎(フレンズ創設者)



▲アンボン医師
(ルアンパバーン県保健局長)



▲ダニエル・A・クルーン大使
(在ラオス米国大使)



▲ブンコン・サエハボン副大臣
(ラオス保健省副大臣)

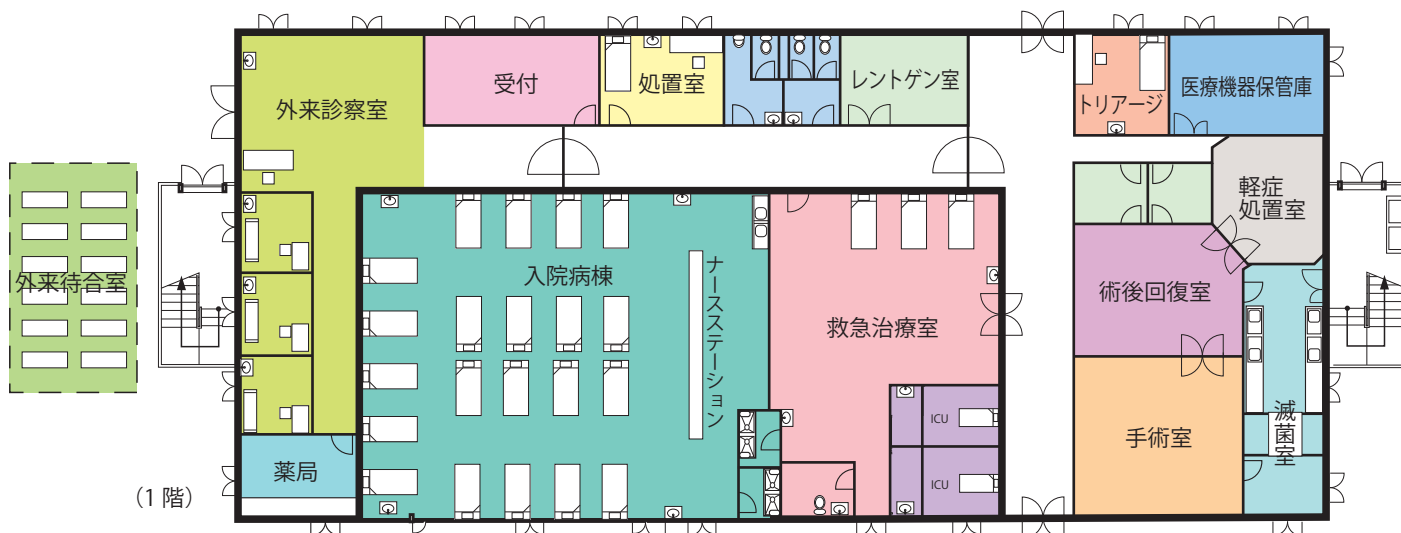
既存の病院と提携することで、施設・機材・人材の共有ができるため、経費を抑えることができます。また、いずれは、病院全体のレベルが改善されるような影響力を発揮したいという目標も据えています。

開院後のLFHCでは、外来と薬局、アウトリーチ（訪問看護等の院外活動）のみオープンしている状態で、まだ全オープンには至っていません。現在、夏頃に入院病棟が開業できるよう準備を進めており、その後、段階的に、他の設備もオープンしていく予定です。

病院案内



◀病院全景と病院マスコットのジャイディー



<1階>

●外来待合室

病院正面入り口で看護師が事前に症状を確認し、受付番号を渡します。緊急時には受付なしで対応できるよう、効率的な診療を心がけています。



●外来診察室

プライバシーを考慮し、個別ブースに仕切られています。まずは身長・体重・体温の測定を行い、医師の診察を待ちます。この病院には、恐いお医者さんや看護師さんはいません。壁のイラストや常備されている絵本も、不安がる子どもたちを癒します。



●入院病棟

機能的なナースステーションを配し、24床のベッドを備えています。救急治療室と集中治療室に隣接しており、病状の変化による連携がうまく



取れるように考えられています。別棟には、入院患者のための炊事設備も完備しています。

●救急治療室

緊急の患者に備え、24時間態勢で対応します。室内には集中治療室も2部屋設けられています。できる限り早く最善の処置を施せるよう整えられた設備です。

●手術室

外科手術ができる設備を完備しています。高度な手術に対応できる医療スタッフを育成することもまた、私たちが成すべきことのひとつです。



<2階>

●アウトリーチオフィス

院内での診療活動のほか、通院が難しい地域や患者、家庭でのフォローアップが必要な慢性疾患患者などを対象とした訪問看護も行っています。また、地域での予防教育と地域医療向上を目的としたコミュニティアウトリーチ活動も行います。

◆2階には他に、教室、図書室、検査室、カルテ保管室、事務室、スタッフルームなどがあります。

▼ひたすらチョコキチョコキ・バリバリ。無心!



アンコール小児病院の開院 1 年後から毎年ボランティアをしてくださっている皆さんがいます。この紙面でも毎年取り上げていますが、日本からの美容師“髪切りボランティア軍団”です。フレンズがラオスへの新しいプロジェクトを立ち上げたことを聞きつけ、今年は「初ラオスで!」と 10 名の美容師さんがいらして、テーブルも鏡もない“サロン・オープンエア”で 3 日間の切りまくり、刈りまくりの日々を過ごしてくださいました。

こうしたボランティア活動にはアクシデントはつきものなのですが、今回もちょっとした(?)アクシデントがありました。雨季が終わったので遠方の村へ

▼道のはずが川に変貌



も行けるだろうという予測のもと、予定した村へ行く途中、道に川ができていました。あらら…。

Give-up かなと諦め

かけた時、近くにいたトラックのドライバーさんが、交渉次第では乗せて行ってあげるよとオファー。ここまで来たら、チョイスはないですね。少々お高くつきましたが、お願いいたしました。…が、このトラック、家畜さんを載せるタイプです。ふふ。私たち、通りすがりの山羊や牛のみんなに白い眼で見られながら、凸凹山道をひたすら揺られて(打ち身だらけでした!)数時間、やっと到着して 1 時間切りまくり、また同じ道に戻るという過酷な経験を、普段はオシャレな美容師さん方にさせてしまいました。ごめんなさい! 来年は、もうちょっと過酷なコースを準備いたしますね! <2014 年 9~10 月の出来事より>

▼家畜気分で移動



▲こんな道を進みます



赤尾和美看護師の
「今月の出来事」から



8月から慌ただしく始まったスタッフの教育プログラムも徐々に波に乗ってきたところで、外部からの教育プログラムも単発で導入することにしました。その教育プログラムを提供しているのは、Health Leadership International (HLI) (<http://healthleadershipinternational.blogspot.com>) というアメリカに基盤をもつ NGO です。HLI は、毎年10月から11月にかけてルアンパバーン・ヘルスサイエンスカレッジの学生さんへ医療教育プログラムを提供しています。昨年の11月に偶然 HLI のメンバーである医師と出会うチャンスに恵まれ、協調関係を進める合意をしました。HLI との協力体制により、ラオスの医療の向上を目指すことを目的に毎年開催している学生対象の教育プログラムへ、ラオ・フレンズ小児病院(LFHC)のスタッフが参加することになりました。今年は10月29日から約1か月に渡る“パッケージトレーニング”が開催され、問診の取り方、縫合の仕方、救急蘇生など多様かつ即 戦力につな

がる充実した内容でした。参加したLFHCスタッフも違う環境での学習を楽しみながらのお勉強でした。偶然の出会いから始まったHLIとLFHCのつながりが、その1年後にこのような形にすることができたのは、ひとつの達成感を感じますね。さらに両団体間では、ギブ・アンド・テイクの関係を築きたいと、LFHCのスタッフが通訳としてこのトレーニングに貢献しました。今後は、他団体とも同様にネットワークを構築し、相互成長していけたらよいと思います。 <2014 年 11~12 月の出来事より>



▲学生さんと合同での大人数クラスでした



▲どこへ何を運ぶんだ???

1年3ヵ月過ぎた仮のオフィスともお別れです。みんなやる気満々で引越しますが、何をどこへ運べばいいのやと右往左往の1日でした。とり

あえず1日を終えるまでには、なんとなく全体的に収まりはついたので、良かった。そして、病院は完成したものの、小道を挟んだ向かいの土地は建築資材や残骸が藪の中にたくさんあり、危険でもありました。子どもたちが来院して怪我でもしては大変です。そこで土地をきれいに整備しましょうということが急遽決まりました。どうせなら、今後の来院患者さんのことを考え、また式典でも多くの車両が集まることを考慮にいれ、パーキングスペースにすることにりましたが、この整備も“やればでき



▲急遽、病院前にはパーキングスペースも

るじゃない!”というほど急ピッチで完成しました(笑)

院内の準備をとりあえず終え、式典へご参列いただく各国からのゲストと共に、前夜祭を



▲立派に成長したAHCスタッフからのスピーチ

清め
▶伝統のバシーセレモニーでお



の成長を早く見たい気分になりました。みながなったのではないかと思います。ラオス伝統のお祓いであるバシーセレモニーで前夜祭を締めくくり、いざ、明日の開院式へ!と気持ちを引き締めました。

式典を終えてホッとした後、『え!これで終わりじゃないんだわ!これからよ!』と、みんなあわてて我に返った様子でした。式典までのドタバタが、“診療開始”という“本番”をすっか



▲まずは、心をひとつに気合いを!

り忘れさせていたようです。2015年2月12日。ついに患者さんを迎えるその時が来ました。ドキドキ、ワクワク。まずは気合いを入れて、みんなの心をひとつにする朝のミーティングです。そして、記念すべき患者さん第1号が8時に来院! スタッフみんなが一瞬にして『うわ〜!』という雰囲気になったのを感じましたが、落ち着いて、落ち着いて…。と、言っ



▲きた!最初の患者さん。ドキドキ



▲外国人スタッフの指導のもとで診察中

ている私ですが、2年前にこの日を本当に迎えることができるのだろうか…と、ひとり密かに不安に思っていたことなどが思い出され、じ〜ん…ではならず、わーんでした。この日に向け、何度も何度も診療の流れを模擬練習してきました。しかし、本番はその通りにはいきません。それが当然なのですが、初めてのスタッフにとっては、あれ?どうなるんだっけ?と右往左往。それでも、無事に初日の診療を終了。予想をはるかに超えた47名の患者さんが来院しました。その後も毎日60〜70名の患者さんが来院しています。日に日に、スタッフもスムーズな動きを見せてくれています。一步を踏み出したんですね。〈2015年1〜2月の出来事より〉

▼外国人スタッフから指導を受けるローカルスタッフ



▲アウトリーチプログラムへも栄養指導の患者さんがたくさん来ました



カンボジア／開院16周年 記念式典が催されました。



▲ステージ上で表彰を受ける永続スタッフたち

アンコール小児病院が開院から16年を迎え、1月26日に記念式典が催されました。自立後2回目となる記念式典です。創設者の井津、フレンズ JAPAN の松島、フレンズ JAPAN 初代理事長の蒲池真澄氏をはじめ日本からも34名が参列し、16周年を祝いました。

優秀スタッフと勤続10年スタッフの表彰式もあり、病院スタッフが「来年こそは自分も!」と士気を高めるのも毎年恒例。こうして1年1年、着実に歩みを進めてほしいと願っています。



カンボジア／サテライトクリニックに 新生児集中治療室ができました。

ソトニコム郡立病院にあるアンコール小児病院サテライトクリニックに、新たに新生児集中治療室が誕生しました。診療対象である小児の中でも、抵抗力の低い新生児は特別なケアが必要となります。このたび、最新医療機器を備えた新生児室ができたことで、より適切な処置ができるように

りました。設置を熱望していた病院スタッフからは喜びと意欲にあふれた声が聞かれ、今後ますますの発展に期待が持てそうです。



▲待望の新生児集中治療室



ミャンマー／モバイルクリニックの支援を 継続します。

フレンズ JAPAN では、現地の NGO「ゴールドミャンマー」が行うモバイルクリニック（移動診療）を支援しています。このたび、フレンズ JAPAN 理事会および総会で、本年度も支援を継続することが承認されました。

昨年度は、子どもと母親に対して行った栄養教育が病気予防への啓発となり、一定の成果が得られたとのデータ分析報



▲村で行っている栄養教育の様子

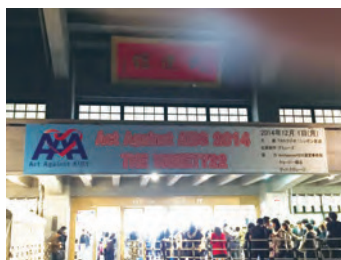
告がありました。そのため、本年度も栄養教育に重点を置き、病気予防につながるような活動を、活動地域を再考して行おうと、現在計画中です。

活動報告

Act Against AIDS 2014 in東京 2014年12月1日 日本武道館

Act Against AIDS は、1993 年から続いている音楽業界を中心としたエイズ啓発活動で、毎年、世界エイズデーに合わせて日本各地でイベントが開催されています。

そのひとつ、日本武道館で行われる『THE VARIETY』での収益金の一部がラオ・フレンズ小児病院 (LFHC) の支援に充てられることとなり、イベント内で、LFHC と赤尾看護師が映像で紹介されました。



▲日本武道館で開催されたAAAコンサート

Act Against AIDS 2014 in五所川原 2014年12月2日 五所川原第一中学校

青森で開催される AAA イベントへのフレンズの参加は、今回で3回目となりました。今回は、一般の公開はなく、五所川原第一中学校3年生250名に向け、青森出身のボーカルデュオ・サエラさんのコンサートと、赤尾看護師の講演という2部構成で開催。赤尾は、『みんなは大切な宝物』と題した、命の

尊さやエイズの知識を伝える講演を行いました。

本イベントは、来年と再来年も同中学校で行われる予定です。つまり、初回は1年生だった生徒が、3年生になるまで続くということ。こうした継続性のあるイベントに出会えたことを、うれしく思っています。



▲中学校での講演風景

トークイベント『ラオスの医療とHIVの現状』 2014年12月4日 東京目黒sibafu

フレンズ JAPAN 事務局の階下にあるレストランバー sibafu で、赤尾看護師を囲むトークイベントを行いました。12月1日が世界エイズデーであることから、テーマは『ラオスの医療とHIVの現状』。

師走の慌ただしい時期にもかかわらず、座席がなくなるほど多くの方に集まっていただきました。フレンズのイベントには初参加という医療関係の方、大阪からの出張ついでに足を運んだという方など参加者も多彩で、興味深いイベントとなりました。

長崎大学 学生国際NGO BOAT

学生国際 NGO BOAT は、長崎の大学生による国際協力サークルです。長崎大学を中心に長崎県立大学など近隣の学生が集い、構成されています。創設されたのが 2004 年といえますから、当時を知る学生はすでに社会に羽ばたき、後輩たちが、当初からの志を脈々と受け継いでいるのでしょう。

そもそものきっかけは、2004 年のスマトラ沖地震による、スリランカ津波被害だったそうです。長崎大学熱帯医学研究所の先生から「学生でも何かできることがあるのではないか？」と呼びかけられ、それに賛同した学生たちが、津波被災地を支援するためにサークルを立ち上げたとのこと。その後、中国四川省大地震の被災地支援や、中央アフリカ共和国での栄養支援などを行ってきました。

フレンズとの出会いは 2011 年、「アンコール小児病院（AHC）を支援したいが、どんなことができるだろうか？」との問い合わせでした。サークルでは毎年、企業や団体からカレンダー・手帳などを集めて「カレンダー市」を開催し、そこで得た売上金を、様々な支援活動につなげているのだといいます。話し合いの結果、AHC の地域支援活動で使用している車の修理費として寄付をいただくことになり、翌年以降も、食糧費支援、備品支援などに継続支援をいただきました。AHC 自立後はラオ・フレンズ小児病院（LFHC）への支援に切り替わり、病院建築費の一部にもご支援をいただいています。あまたある団体の中からフレンズを選び、支援を継続していただいていることに、ただただ感謝です。

長崎は鎖国時代も唯一、海外とつながっていた地であり、そうした土地柄からか、長崎大学の特色のひとつとして、早くから国際協力を積極的だったことが挙げられます。その DNA を受け継ぐ若者たちの活躍が、楽しみでなりません。“若い力” は素晴らしく、その爽やかな活力は、フレンズにとっても、とても大切な息吹となっています。これからも共に手をたずさえて、実りある活動をしていけたらうれしいです。

◀LFHCの建築現場を訪問



▶カレンダー市の様子



アジアの子どもたちを支援する
フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー JAPAN
に皆さまのご協力をお願いいたします。

ご支援の方法をお選びいただけます。

- 一般賛助会員 : 年会費 1 口 6,000 円
- 学生賛助会員 : 年会費 1 口 3,000 円
- 一般寄付 : 金額・回数はご自由です

支援者には年2回発行のニュースレターをお送りするほか、報告会やイベントの案内などをお届けします。

- 正会員 : 年会費 個人 12,000 円
団体・法人 30,000 円

正会員には、ニュースレターや報告会・イベントの案内などをお送りするほか、年 1 回の定時総会において、団体の意思決定について参加していただけます（委任状の提出も可能です）。

※正会員は、当法人が定める入会申込書を別途ご提出ください。

ご寄付を希望される方には、専用の郵便口座の振込用紙をお送りしております。ホームページのフォーム、もしくはお電話でご請求ください。郵便局や銀行に備え付けの用紙を使っていただいてもかまいません。

● 郵便口座

加入者名：特定非営利活動法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー JAPAN

振替番号：00160-0-546217

● 銀行口座

銀行名：三菱東京UFJ銀行 中目黒支店

口座番号：普通預金 0420041

口座名：トクヒ) フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー ジャパン

● クレジット決済

ご自宅からインターネットを通じ、クレジットカードでご寄付ができます。フレンズ JAPAN のホームページ www.fwab.jp にアクセスし、手順に沿ってお手続きください。

※ご寄付には寄付金控除の可能な領収証を発行いたします。

※銀行からのお振込みや、ご自身の郵便口座より郵便振替で直接送金される場合、お手数ですが必ず、お名前、郵便番号、ご住所をお知らせください。

※アンコール小児病院（カンボジア）に限定したご支援をご希望される方は、その旨を事務局までお知らせください。（振込用紙使用の場合はカンボジア寄付とご記入ください）

ラオスを知ろう

美しい街並と僧侶の托鉢

ラオス北部に位置するルアンパバーンは、13世紀に、ラオスの起源となるラーンサーン王国が誕生した古都です。小さな街に散在するたくさんの仏教寺院と、フランス統治時代の名残をとどめる西洋風の建物とが美しい街並を形成しており、1995年、街全体がユネスコの世界文化遺産に登録されました。

ラオスでは国民の約90%が仏教の信奉者だといわれ、それを象徴するのが、僧侶の托鉢です。毎日、早朝のお勤めを終えた僧侶たちが寺院を出て托鉢の列を作り、人々は夜も明け切らぬうちから家の前でそれを待ち、ご飯や食料を喜捨します。観光客が多い大きな通り

では、ゴザや喜捨する食料など最低限必要なものを準備した“托鉢セット”なるものを押しつけ、「あなたも托鉢体験できますよ」といった商売が成り立つほどの加熱ぶり。托鉢の写真を撮ることに夢中でマナーを心得ない観光客も多く、そうした行為は国の内外から批判され、街のあちこちで注意喚起がなされています。

▶毎日欠かさず行われる
托鉢の風景



◀フランス統治時代の面影を残す街並

事務局より

目黒川お花見会を行いました

フレンズ事務局のすぐそばを流れる目黒川沿いは、市内でも有数の桜の名所です。「せっかくそんな場所に事務局があるのだから」と、昨年初めてお花見会を開いたところ、これがなかなか好評だったため、今年も開催することに。

当日はあいにくの雨で肌寒く、桜も満開を過ぎていましたが、それでも十分に花を楽しむことができました。ふと気づくと、最近では珍しく参加者オール女子！久しぶりに顔を見せてくれた方、初めて来てくださった方もい

て、事務局にスタッフが用意したたこ焼き器を囲みながら、カンボジアやラオスの四方山話、次にみんなでいきたい場所など、尽きない話で盛り上がりました。さすが女子会！

普段はボランティアミーティングなどに合わせて集まるのですが、今回は仕事抜きでの集会でした。たまには、こうした親睦会もよいものですね。




FRIENDS
WITHOUT A BORDER

www.fwab.jp

認定NPO法人
フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー JAPAN
〒153-0064 東京都目黒区下目黒1-7-5-203
Tel / Fax : 03-6421-7903
friends@fwab.jp

Friends Without A Border
1123 Broadway, Suite 1210
New York, NY 10010 USA
Tel : 212-691-0909
Fax : 212-337-8052

Lao Friends Hospital for
Children
Nasang Road, Phoumork Village,
Luang Prabang district,
Luang Prabang province Lao PDR